

現在の地区の取り組み

- 在宅高齢者等給食サービス事業
- 子育て支援事業
- 友愛訪問事業
- 世代間交流事業
- 一人暮らし高齢者つどい事業

- 緊急連絡カード事業
- 地区別福祉懇談会
- 年末年始見守り事業
- 子どもサポートフェスティバル



高齢者会食会「きさらぎ会」



子育てサロン「にこにこ子育て教室」



一人暮らし高齢者集い事業



子どもサポートフェスティバル

福祉施設等の地域資源



- ①川鶴保育園
- ②真寿会デイサービスセンター川鶴
- ③あかね居宅介護支援事業所

- 自治会数……………5
- 自治会集会所数……5
- 自主防災組織数……4
- 民生委員数…………12

- 保健推進員数…………2
- ボランティア団体数…4
- NPO団体……………0
- 老人クラブ……………5

- 病院……………0
- 一般診療所……………3
- 歯科診療所……………2



川鶴地区福祉プラン

地区の特徴

川越市の西端に位置し、鶴ヶ島市と境を接する川鶴地区は、圏央自動車道鶴ヶ島ICから車で5分のところにある。昭和50年代後半から旧住宅公団によって開発・分譲された5階建て中層住宅と戸建住宅の混在する純住宅地の静かな地区です。周辺は開発が進んではいるものの田畑が多く、処々に雑木林が散在し、武蔵野の面影を残しています。

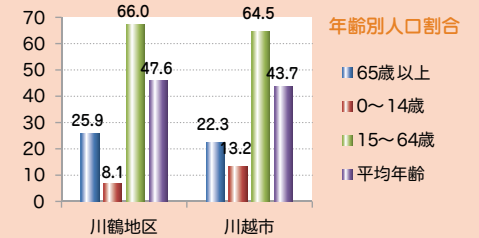
最寄駅は東武東上線鶴ヶ島駅で、地区には鶴ヶ島駅へのバス路線が3路線あり、住民の大部分を占めるサラリーマンはこれらを利用し、都心に通勤しています。

高齢化が進んでおり、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も多くなっています。

地域住民の状況

	川鶴地区	川越市
●人口	5,958人 (前年比-2.60%増)	346,739人
●世帯数	2,400世帯	145,904世帯
●高齢化率	25.9%	22.3%

※平成25年1月1日現在



地区の活動目標

- 目標1 高齢者を見守り、日常生活を支援する体制の充実を図る
- 目標2 高齢者が気軽に集まれる場所や機会を整備、充実する
- 目標3 若年層の地域活動への参加を助長し、福祉ボランティアを育成する
- 目標4 災害時の避難支援体制を整備する

エリアミーティングであげられた課題

- ◇一人暮らし高齢者や高齢者のみで構成する世帯が増えている
- ◇団体役員の担い手が不足している
- ◇災害が起きたときのことが不安である
- ◇近所付き合いが少なくなっている
- ◇福祉サービスや相談機能が十分でない



川鶴地区のシンボルマーク

目標1 高齢者を見守り、日常生活を支援する体制の充実を図る

● 一人暮らし高齢者への配食と友愛訪問等による見守り活動を充実します

具体的な取り組み

- ▶ 一人暮らし高齢者に対し、配食を年3回と友愛訪問を実施します。
- ▶ 障がい者への友愛訪問を年1回以上実施します。
- ▶ 市、地域包括支援センターとの連携により、一人暮らし高齢者を見守ります。

目標2 高齢者が気軽に集まれる場所や機会を整備、充実する

● 高齢者の集う機会をより多く設定するとともに高齢者の活動を支援します

具体的な取り組み

- ▶ 川鶴全地域対象の高齢者会食会「きさらぎ会」を年3回実施します。
- ▶ 地区別の高齢者会食会「きさらぎ会」を年4回実施します。
- ▶ 各自治会の敬老会や高齢者団体の活動に協力します。
- ▶ 市老連川鶴支部の活動を支援します。



目標3 若年層の地域活動への参加を助長し、福祉ボランティアを育成する

● 区内他団体との連携による世代間交流を推進します

具体的な取り組み

- ▶ 川鶴地区福祉バザーを年1回実施します。
- ▶ 川鶴地区連合運動会に協力します。

- ▶ 川鶴地区子どもサポートフェスティバルに協力します。
- ▶ 青少年を育てる川鶴地区会議の「子どもの遊び場」に協力します。
- ▶ 各自治会の夏祭りに協力します。



● 子育てサロン「にこにこ子育て教室」を充実します

具体的な取り組み

- ▶ 公民館との共催により年11回実施します。

● 地域福祉に関わるボランティアを育成します

具体的な取り組み

- ▶ 公民館との協力のもと、ボランティア養成講座を開催します。
- ▶ 地域福祉事業等に協力する福祉協力員やボランティアを募集します。

● 地区社会福祉協議会の活動等について啓発広報します

具体的な取り組み

- ▶ 福祉啓発紙「福祉ニュース」を年3回発行し、全戸配布します。

目標4 災害時の避難支援体制を整備する

● 各自治会の防災計画のもと、災害時要援護者の避難を支援します

具体的な取り組み

- ▶ 市、自治会との連携により災害時要援護者の情報収集に努めます。
- ▶ 各自治会の防災計画による災害時要援護者の避難を支援します。

